

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 25年 4月 8日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796000038		
法人名	医療法人 真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市堺区大浜北町3丁10番16号		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成25年3月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が安心していきいきとした生活を送ることができるように心がけている。個別性を重視し、出来る限り意思の尊重を図りながら援助している。また医療依存度が高い入居者の方が多いため、医療サイドと密な連携をとり、健康状態が維持できるように対応している。ケアの基本姿勢としては、まず本人が出来ることはご自身で出来るように、出来ないところは援助するようにしている。少しでも長く個々の生活レベルが維持できるようにスタッフや家族とが協力して行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「いきいきグループホーム」は医療法人真芳会を母体とする2ユニットのグループホームであり、南海本線堺駅より徒歩10分の住宅地の中にある。事業所と同じ建物内に法人の診療所があり、24時間体制で医療との連携を図り、慢性疾患や医療依存度の高い利用者でも安心して生活ができるように支援している。年間計画に基づく内部研修を実施しており、職員全員が参加している。研修で学んだ事柄は、利用者のケアに反映させるように努力している。食事や水分管理の必要な利用者が多く、医療との連携を図りながら献立を作成しているが、食事の変化が楽しめるように、月1～2回利用者と一緒に焼肉や焼きそば等の調理をする「食事レクリエーション」や個別に外出に行く等の工夫をしている。堺市の「堺区見守りネット」に登録して認知症見守り活動に参加したり、地区自治会に加入し地域の公園清掃に参加する等、地域との関係づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人を母体とするグループ事業所であることから「医療と介護の融合」を図った理念を構築。定期的なグループ法人での代表者会議や全職員を対象とした勉強会により理念に基づいた議論を行い実現に取り組んでいる。	事業所の理念「人権尊重の精神を基盤に地域に根差した医療・福祉の融合と総合理解に努め、高齢者の自由と権利を守りながら地域資源との協働を図る」を玄関に掲示している。理念を基に職員は月に1回の全体会議や研修会等の機会を捉え、その実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会への入会。自治会活動へ参加し定期的に公園や近隣の清掃に全職員を交代に参加させ地元の方々との交流を図っている。夏祭りやクリスマス会などは行事案内を回覧し、地域の方にも見学に来ていただくようにしている。	地区自治会に加入しており、月に1回の公園清掃などに職員が参加している。夏祭りやクリスマス会等の行事案内を町内に回覧し、地域住民に参加を呼び掛けている。昨年は5名の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護相談窓口や出前講座の依頼を受ける姿勢を自治会にも伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は事業所が抱える問題や不足している部分として素直にとらえ、今後も認知症の理解を深めていくと共に地域に育てていただく気持ちで更なる認知症ケアの質の向上に向け取り組んでいる。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者、家族、町会長、地域包括支援センター職員、事業所の職員が参加している。事業所からの運営状況、活動報告などが中心となっており、参加者同士の積極的な意見交換は少ない。記録は職員に回覧し情報の共有をしている。	双方向的な会議となるよう運営推進会議の議題の選び方や進行上の工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターへの活動報告や案内、市の担当者への認知症対応型介護としてのあり方や個々のご利用者の相談を行いながら連携を図っている。	管理者は市の担当者に運営推進会議の内容報告や前年度からの困難事例の継続相談等を行うなど、日頃から協力関係を築いている。堺市基幹型包括支援センターからの依頼で「堺区見守りネット」に登録し認知症見守り活動に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	厚労省より出された身体拘束ゼロに向けての指針や方針は各フロアの職員の目の届く場所に資料を保管している。	職員は身体拘束をしないケアについて研修やカンファレンス等で共通認識を図っている。日中玄関には鍵をかけず、扉に鈴を付けて扉の開閉が職員に分かるようにしている。現在、外出願望の強い利用者は殆どいないが、外出を希望する利用者には付き添って一緒に外出するなどケアを工夫している。	

7	<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては具体的な取り組みはできていないが、日々の業務の中で行うことが虐待行為につながる可能性があることを念頭に置くように努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見人制度について勉強会等で学ぶ機会をもっている。また個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>相談窓口での対応は管理者としている。一本化することで説明内容が統一され、利用者や家族に混乱が生じないように配慮している。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談連絡先は各フロアの出入り口に掲示し意見箱を設置、意見の収集に努めている。また各フロアに相談担当者を置き利用者や家族の意見・不満、苦情等の対応を行っている。管理者へは随時報告し速やかな対応を心がけている。職員へは会議や申し送りで内容・対応を報告している。</p>	<p>職員は利用者とのコミュニケーションや家族の面会時に運営に関わる意見や苦情を聞くように努めている。面会の少ない家族には電話や手紙で希望や要望等を聴取している。ユニットリーダーが苦情相談窓口となり、意見や苦情を管理者へ報告している。出された意見は個別支援に関わるものが多く、職員は全体会議等で内容やその対応を共有し意見の反映に努めている。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期的な全体会議を行っている。日常から管理者と職員との信頼関係が重要と考え、意見の言いやすい環境作りや全員参加型の会議の実現を目指している。</p>	<p>管理者は全体会議等で職員の意見を積極的に聞いている。ユニットリーダーは日頃から気さくに職員の相談相手になる等意見を出しやすい環境作りに努めている。出された意見は全体会議で話し合い、看護師の提案で毎朝10時に職員が集まり申し送りを行う等運営に反映している。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度を導入している。法人本部が積極的に職員同士のコミュニケーション不足解消のために交流の場を設けている。職員アンケートを通じて職員への質問や職場環境改善策に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人本部で行う勉強会への参加は代表者に絞らず一般職員への参加も求めている。内容についての意見も汲み取る姿勢を通達し外部研修参加へも積極的に支援している。</p>		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>区毎に開催しているグループホーム連絡会や地域で行っている研修や勉強会の参加の通知を職員に通達しスキルの向上支援を行っている。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまでの面談を数回行い、見学説明に時間をかけ、組織が目指す理念や利用者の考える希望の生活の場をどのように提供できるか話し合っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>上記と同じく、話し合う時間を出来るだけ長く取るように配慮しているが、利用者とその家族の意向が違う場合には基本的に利用者の意思を尊重すると説明している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援          サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当施設に入居希望される方は透析をはじめとした医療依存度の高い方が多い。栄養管理等医療スタッフと連携をとりながらケア計画に同意をいただけるよう配慮している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係          職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者自身が自立した生活を行えるように、共に支えあい、またどのような生活がしたいか話し合いながら信頼関係を築く努力をしている。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係          職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族は利用者にとってかけがえのない存在である。本人や家族の思いを聞き、その思いを大切にしながら、職員は家族と共に本人を支えていく関係を築く努力をしている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら外出を通してなじみの人や場との関係継続の支援に努めている。また、家族同様、なじみの人にも気軽に来所していただけるよう、職員には挨拶の徹底を伝え、利用者と語り合える環境作りにも努めている。	友人や馴染みの人が、気兼ねなく事業所を訪問してもらえるよう、話しやすい雰囲気作りに努めている。利用者の馴染みの理美容院や商店に出かけたり、自宅に戻る等の支援をしている。年賀状の代筆や家族への電話の橋渡しを行う等利用者の馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活としてとらえるのではなく、一つの建物の中でそれぞれの個性を生かせる環境を提供するよう努めている。そのため喧嘩やいざこざが生じやすいが、利用者同士で解決できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も気軽に相談していただけるような関係を築くように努めている。そのため電話や来所で相談に応じることもある。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活の意向の把握は計画作成担当者だけでなく、職員全員がチームとして考えなくてはならないと意識づけるために、話し合う場を設け、意向やそのために何が必要か検討している。	利用者毎に担当職員を決め、利用者との日頃のコミュニケーションの中から得た情報や家族から得た利用者の生活情報等から思いや意向の把握に努めている。毎日の申し送りやカンファレンス等で職員全員が情報を共有し、介護支援専門員が支援経過に記録し、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者の持つ価値観、こだわり、嗜好、日課など行動や言動から見える生活歴をプライバシーに配慮しながら理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のように変化のある暮らしの中で、アセスメントの内容や計画だけでははかりきれない出来事が多くある。生活をマニュアル化し把握するのではなく、日々、利用者の行動や会話に目や耳を傾けるよう取り組んでいる。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケア計画を見直す際、利用者や家族の意向を尊重し、医療機関、管理栄養士、訪問歯科、訪問マッサージ等関係機関に意見を求め、それぞれ反映しながら計画書を作成している。</p>	<p>利用者・家族からの意向や要望を日頃から聞き取り、医療との連携を図りながら介護支援専門員、管理栄養士、介護職員等が介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に行い、利用者の状態に変化がある場合には随時見直しを行っている。職員はカンファレンスを毎週実施し、きめ細かいケアに努めている。</p>	<p>介護計画作成時には利用者・家族等にカンファレンスへ参加の働きかけが望まれる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の発言をケース記録にそのまま記載するように求めたり、他者との関係の出来事など客観視した記録を記載するよう伝えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の申し出をどのような出来事でも報告、または記録に記載するよう努めている。他機関から受けるサービス提供による視点の分散により観察や情報の幅を広げている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が参加していた会合への出席が継続できるよう支援し、またなじみの店で買い物ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同グループ内の診療所のほか、利用者や家族が希望される場合は他の医療機関に受診される方もある。病状にあわせて適切な医療機関への受診に配慮している。</p>	<p>利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるように支援しているが、法人内診療所での受診を希望する利用者が多い。眼科、皮膚科等外部診療機関の受診には原則家族が同行しているが、不可能な時は職員が同行し支援している。受診後の結果は職員等が家族に説明している。併せて経過記録に記録して、職員間で情報の共有を図っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>24時間医療連携を整備している。同建物内に診療所があり、医師、看護師と常時連携が取れる体制を整えている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	診療所が他の医療機関との連携を図り、調整を可能としている。利用者が入院した際、病院関係者との情報交換や相談を行い、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内での終末期における対応及び看取りに関する指針を書面化し職員への周知を図る。併設の診療所と連携した取り組みが可能である。本人や家族等と話し合いながら行っている。	「看取りに関する指針」を文書化し、入居時に利用者や家族に説明しており、看取り希望がある場合は終末期の緊急時の対応等について家族と同意書を交わしている。さらに、早い段階から、看護師、介護支援専門員と家族が対応方針について話し合い、特に終末期の対応については、主治医が家族に説明を行い、利用者・家族と医師・看護師・介護職員が情報を共有し、連携して支援に取り組む体制を整えている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡や報告先をマニュアル化し各フロアに設置している。不安などあれば、その都度、医療連携先の医師や看護師等に確認または指導を受けている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、施設内消防訓練を行っている。平成24年度は新設の併設施設と合同で実施した。	年に2回、同一敷地内にある法人の他事業所と合同で通報・避難訓練等を、利用者・職員とともに実施している。そのうち1回は、消防署が立会い夜間を想定した避難訓練や消火器による消火訓練を実施し、他の1回は地震と火災を想定した訓練を実施している。しかし、災害時の地域との協力体制や備蓄はできていない。	運営推進会議を活用し、災害時の地域との協力・応援体制が得られるよう具体的な取り組みを期待したい。災害時の飲料水や食料の備蓄の検討も望まれる。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩に対し、敬意を持った態度や言葉づかいを指導している。法人主催の接遇マナー研修に参加し、現場にも活かしている。個人情報取り扱いについても厳重に注意し配慮を怠らない努力をしている。	年に1回職員全員を対象に、接遇マナーやプライバシー保護に関わる研修を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう意識付けを図っている。利用者の個人情報に関わる書類は鍵のかかる書棚に保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己実現が可能になるように職員と利用者の関わりを維持していくため、些細な言動も見落とさず支援できるように努めている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合で動くのではなく、日々の健康状態を観察しながら本人の気持ちに寄り添う支援を行えるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>利用者の意思を尊重し、身だしなみが行えるよう支援している。普段より身だしなみに気を使われている利用者には家族からの情報と協力のもと、好みに応じた衣類を着用している。また希望者には訪問利用ではなく、外部の理美容室に行くことができるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事管理が必要な利用者が多いため管理栄養士の指導のもと、外注での食事提供を行っている。また月間行事として季節感のあるものを取り入れたり、利用者のリクエストに答える形で計画を立てている。</p>	<p>食事管理に必要な利用者が多いため法人の管理栄養士が献立を作成し、調理は外部の専門業者に委託している。正月、花見、夏祭り、敬老会、クリスマスには行事食を提供している。また、誕生日には、利用者の希望に合わせた外食支援やケーキの提供を行っている。レクリエーションとして毎月1～2回、利用者の要望を聴いて行う焼肉、焼きそば、鍋等の「料理レクリエーション」やケーキ等の「おやつレクリエーション」も好評で、利用者は出来ることを職員と一緒に楽しんでいる。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>血液検査データおよび体重の増減を医療と栄養士がチェックし栄養状態の管理を行っている。食事や水分制限はあるが、医療と連携を図りながら、提供している食事をメインとして個々の好みのものを補食として提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>訪問歯科と連携し、診察や指導、相談を行っている。個別に報告書をいただき、日常の口腔ケアに役立てている。誤嚥予防のための口腔マッサージや口腔体操にも取り組んでいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の回数や失敗により簡単にパットやおむつを使用することは身体拘束に値すると説明。個々に合わせた排泄状況を把握しパターン化を避ける。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が気持ちよく出来るように支援をしている。おむつ利用者もあり、カンファレンスにおいておむつ交換の時間や昼・夜の誘導方法等について全職員で話し合い個別の支援に努めている。</p>	



44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸蠕動を活発にする食品の提供と共に冷え予防に入浴日以外に足湯を実施している。自力排便や便秘傾向のある方には医療へ報告し薬剤による調整を図っている。	
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回実施している。入浴しない日は足浴を行っている。利用者の状態によるが、希望があれば夜間浴を実施している。	入浴は基本的には週2回で、希望により足浴もできる。比較的介護度の低い利用者には個浴で1対1で対応し、夜間も含めて利用者の希望する時間帯にゆっくりと入浴できる。介護度の高い利用者には、2人介助の機械浴で対応している。夜間等同性介助のむずかしい時もあるが、利用者の同意を得て支援している。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムをできるだけ崩さないように配慮しているが、重度疾患で安静を要する利用者も多いためパターン化しないよう、個々の体調に合わせたリズムの把握に努めている。	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を保管している。提携している薬局に薬剤管理を依頼している。薬剤の変更等があった場合や注意しなければならぬ情報は医療サイドから指示があるため職員は把握している。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者主体による読み聞かせ、ラジオ体操、トランプ、パズル、カラオケ等レクレーションを実施。また趣味や意向を引き出せるよう努め、月間や年間行事に組み入れている。	
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調の良い日や気候が良い日等、外出を心がけるよう配慮している。ヘアカット、買い物など出かけられるよう支援している。	利用者の体調に配慮しながら、天気のよい日には、近隣の大浜公園への散歩、コンビニエンスストアへの買物や散髪に、職員と一緒に車椅子や徒歩で出かけている。また、去年は利用者全員で同公園で花見やサーカスの公演を楽しんだ。個別には、家族等と一泊旅行や馴染みの喫茶店等に出かけている。

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は利用者が入居時に家族を含めて取り扱いを決定している。入居者の中にはご自身で管理している方もいる。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の目の届く場所に電話を設置しているため、利用者の希望があった際は家族へ連絡したり、家族からの電話に利用者に対応している。昨年末は利用者が家族や知人に年賀状を出せるように支援した。</p>		
52	<p>19</p> <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じたポスターや飾りなどスタッフで工夫している。</p>	<p>玄関を入ると、廊下の壁に桜の木の貼り絵、折り紙で作ったチューリップ等が飾ってある。リビングの広い窓からは温かい陽の光が差し込み大浜公園が望める。フロアにはテーブルと椅子を配置し、壁には大きなカレンダー、写真や似顔絵、季節の花の折り紙細工を飾っている。利用者はテレビや足浴等を楽しんだり、童謡のBGMを聞きながらゆったりと過ごしている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルやソファ等を設置し、自由に場所を変えることが出来るように工夫している。利用者の移動の際の動線に注意している。</p>		
54	<p>20</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時は新しいものではなく、できるだけ使い慣れた、馴染みのあるものをそばに置いていただけるように、本人や家族と相談し、支援している。</p>	<p>備え付けのベッドと大きなクローゼットのある居室は洋室ではあるが、利用者や家族の希望で、敷物を敷いて布団を敷くこともできる。居室には利用者の馴染みのタンス、配偶者の写真、時計、鉢植えの観葉植物、仏壇等を持ち込んでいる。職員は利用者や家族と相談して、一緒に調度品等を買うに行くこともある。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>医療スタッフと連携しながら身体機能の低下を予防し情報交換もできている。利用者が自立した生活が少しでも長く継続できる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない